

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第11号—

令和3年6月14日
平戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司



家庭訪問お世話になりました

先週の家庭訪問は大変お世話になりありがとうございました。家庭訪問は、学級担任が、家庭や地域の様子を知ることができる貴重な時間です。おかげ様で、子供たちが育っている環境をより詳しく理解することができました。今後の学校での指導に生かしていきたいと思えます。

社会科見学に行きました！

6月11日（金）に4年生が、社会科の学習で、大川原町の阿奈田浄水場を見学しました。雨の中での見学でしたが、ダムや浄水場の仕組みや工夫等を見聞し、学びを深めました。



教育実習生が来ています

6月7日（月）～6月18日（金）の2週間、本校卒業生の曾川香鈴さんが、教員免許取得のための教育実習にきています。曾川さんには、1年生を中心に子供たちと関わってもらいます。

将来は教員を目指している曾川さんです。夢の実現に向けて津吉小で有意義な体験を積んでほしいと期待しています。

平戸市少年の主張大会がありました

6月13日（日）に、平戸文化センターで、「平戸市少年の主張大会」が開催されました。市内の小中学校から各1名の代表が発表しました。津吉小学校からは、6年吉永倫太朗くんが、「夢をつなぐ第二平戸大橋」という題で発表しました。ふるさと平戸に対する思いと、ふるさと振興についてのアイデアや願いが、熱く語られました。

この少年の主張大会に向けて、6年生児童全員が、ふるさと平戸の振興について真剣に考え、考えを作文にまとめました。子供たちが書いたどの作文にも、子供たちのふるさとに対する熱い思いと6年生の今考える平戸の未来像、そして自分の将来の夢などが具体的に描かれていました。その思いや考えを保護者や地域の方にも広く知らせたいと考え、下記の方法で公開したいと思います。ぜひご覧ください。



【展示場所】 校区内2か所

○南部公民館（多目的センター）1階ロビー → 全員分

○各地区（津吉郵便局・前津吉郵便局・中津良郵便局・堤郵便局・旧早福分校）→当該地区児童

【展示期間】 6月14日（月）～6月25日（金）

【津吉小代表の吉永倫太朗くんの発表原稿を裏面に掲載していますので、ご覧ください。】

夢をつなぐ第二平戸大橋

津吉小学校 6年 吉永倫太郎

平戸島を往来する時、誰もが必ず通る平戸大橋は、田平の町と平戸の町をつなぐ役割を担っており、私たちは、通るたびに平戸の山や海の美しさに目を奪われます。そんな平戸大橋ですが、週末出掛ける度に、思うことがあります。「なぜ、こんなに平戸大橋は混むのだろう」と。

平戸市は自然が豊かで、観光地や歴史的建造物もたくさんあり、食べ物もおいしいので、毎年観光客の方々がたくさん平戸市を訪れます。それはとてもうれしいことであり、もっともっと平戸の良さをたくさんの人に知ってもらいたいという思いがある反面、これ以上観光客が増えると、平戸大橋は大渋滞になり、平戸市に住んでいる私たちがスムーズに通行できなくなるのではないかという不安もあります。

そこで、平戸市改造計画の一つとして、「第二平戸大橋の建設」を提唱します。自分なりにそのメリット、デメリットを一生懸命考えてみました。

まず、一つ目のメリットとしては観光客が増加するということです。平戸島に来るには、自家用車で来る方が大多数です。交通の便が優れているとは言えないこの平戸市では、車の流れが一番大切だと思います。平戸市は自然も観光地も食べ物も、そして交通も最高なので、これに車の流れがスムーズだとほとんどの観光客が「また訪れたい」という思いを持ってくれることでしょう。この平戸市の良さが、日本全国、いや世界中に広がり、平戸市はもっともっと発展していき、さらに住みよい市になっていくと思います。

そして、二つ目のメリットは、万が一、災害などで現在の平戸大橋が通行できなくなった場合でも、本土との往来が可能になるということです。平戸市では、去年の夏、生月大橋のそばの斜面のがけ崩れが原因で、通行止めとなり、しばらくの間、生月島が孤立状態になりました。その後も生月では、大雨の影響で通行止めが発生し、生月に住んでいる方々は、今も不安な日々を送られたことでしょう。平戸市は複数の島で構成されており、自然災害の影響を受けやすいので、今後もこういう事態が起きることが想定されます。だからこそ、第二平戸大橋があると同じような事態は防げるのではないかと思います。

ですが、当然デメリットもあります。第二平戸大橋を建設するためには、莫大な費用がかかるということです。調べてみると、現在の平戸大橋は、一九七三年から四年の歳月を、約五十六億円のお金をかけて建設されたそうです。平戸市の年間の予算が約二百四十億円ということを経済科の学習で学びましたが、社会保障や教育など様々なことにたくさんの税金を使ってくださっており、第二平戸大橋に回す予算はないということもわかっています。だから一年間で費用を確保するのは不可能です。では、一年という短い期間ではなく、十年間、二十年間という長い目で見てはいかがでしょうか。毎年、少しずつ第二平戸大橋を建設するための費用を貯蓄していき、たまったら建設を開始するようにすれば可能だと思います。もちろん、それ以外にもたくさん問題はあります。ですが、私なりに第二平戸大橋の実現に向けての案を述べました。

私の家は、曾祖父から三代続く土木業を営んでおり、私も将来はこの稼業を継ぎたいと思っています。だから、将来は自分が第二平戸大橋の建設に携わり、平戸市の発展に貢献したいという強い気持ちがあります。そのような大きな仕事を任せられるためには、土木業のスペシャリストにならないといけない。今の自分を振り返ってみると、生活の場面で雑にすることが多く、学習でも気分が乗らないとすぐにあきらめてしまうことがあります。このままでは、平戸大橋を造るどころか、誰にも頼りにされず、仕事も任せてもらえません。今のめんどくさがるの自分を鍛えなおすこと、学校での学習に真剣に取り組むこと、そして今のうちから祖父や父から土木業について学ぶことを今後の目標に、一日一日を大切に過ごしていきます。そしていつの日か、土木業のスペシャリストとなり、第二平戸大橋の完成に貢献したいと思っています。平戸市民の「夢」、私自身の「夢」、そしてこの二つの「夢」をつなぐのが、まさに第二平戸大橋です。